

令和4年度 第2回石狩市厚田区地域協議会 会議録

【日 時】 令和4年5月26日（木） 18:30～19:55

【場 所】 望来コミュニティセンター 多目的ホール

【出席者】 11人（15人中）

役職	氏名	出欠	役職	氏名	出欠	役職	氏名	出欠
会長	渡邊 教円	○	委員	加藤 亞弓	○	委員	角野 亮太	
副会長	東 幸子	○	委員	鎌田 憲一	○	委員	平賀 敏和	○
委員	石田 靖子	○	委員	小山 玲子	○	委員	村本 龍一	○
委員	大内 さつき	○	委員	今 光江		委員	森田 瞳	○
委員	岡山 拓	○	委員	笹谷 清一		委員	八木沼 英晃	

※会長・副会長を除き、あいうえお順

企画経済部企画課 ～ 宇野課長

厚田支所 ～ 東支所長、吉田市民福祉課長（併 厚田生涯学習課長）

地域おこし協力隊 ～ 飯塚隊員、奥本隊員

集落支援員 ～ 八木沼支援員

事務局（地域振興課）～ 高田課長、永塚主幹、寺尾主査、渡部主査

【傍聴者】 2名

【次第】 1. 開会

2. 会長挨拶

3. 情報交換会（リラックスタイム）

4. 協議事項

（1）第9期厚田区地域協議会の運営について（継続協議6回目）

「移住定住の促進に向けた情報発信について」

5. 報告事項

（1）厚田学園の「CSあいさつ運動」と

「Bakery & Pizza HOME とのコラボレーションピザ」の販売について

6. その他

7. 閉会

1. 開会

開会前に事務局（高田地域振興課長）より、今委員、笹谷委員、角野委員、八木沼委員の4名の欠席報告と、併せて渡邊会長より本日の協議会へ厚田区地域おこし協力隊員及び厚田区集落支援員の参加を求め参加していること報告し、令和4年度第2回厚田区地域協議会を開会した。

2. 会長挨拶

渡邊会長より、本日参加いただいたお礼と、委員の皆さまより協議事項である移住定住への意見を聞く場があるのでご協力をお願いした。

3. 情報交換会（リラックスタイム）

八木沼集落支援員から、みよし園入所者と高齢者クラブの畑づくりを通じた交流活動の企画「畑で会いましょう」の取り組みについての情報提供を行った。

4. 協議事項

（1）第9期厚田区地域協議会の運営について（継続協議7回目）

「移住定住の促進に向けた情報発信について」

前段、事務局（渡部主査）より、資料1の第1回厚田区地域協議会の「意見まとめ」について説明後、協議を行った。

【 渡邊会長 】

事務局から説明のありました子育て世代や定年後の移住という話もありましたが、そんなことを言っている場合じゃなく、こちらが選べる状況じゃないのではとの意見もありました。とにかく厚田の魅力を知っていただくことが、まずは大事なのかなと思います。移住となるとハードルが高いというところも確かにあると思いますが、八木沼支援員が9年間だけでも厚田に居てもらってと言われていましたが、それは私もいい意見だなと思いました。もっといえば、厚田保育園に入っていたら、0歳から15年間を厚田で暮らして、その後は別に考えてもらうのもありなのかなと思いました。15年も住んだら、もしかしたらそのまま居てくれるのかなと。すっかり厚田の魅力に取りつかれて、そんな気がしないでもないのですが、そういうことも、アピールの一つになるのではないかなと思いました。これからどうやって情報を発信していくのかということが、大事なのかなと思いますが、いろいろとそこには、出来ることと出来ないことというか、まだまだもう少し練ってやらなきゃいけないことがたくさんあると思いますが、今回、お試し住宅の部分で奥本隊員が、道内の状況についていろいろと調べていただいていますので、説明をよろしく願いいたします。

【 奥本隊員 】

お手元の「ちょっと暮らし実施状況」をご覧ください。お試し住宅のプログラムを各自治体で実施しているのですが、北海道では「ちょっと暮らし」と言っています。まずお手持ちの資料を開きまして、実施している自治体数ですが、北海道179自治体ありまして、「ちょっと暮らし」を実施しているのが92自治体で、約半数の自治体が、既に実施しているところです。それぞれの自治体で提供している住宅がありますが、平均しますと3.4戸で、各自治体3戸から4戸程度を持っているということになります。ただ、提供戸数が多い自治体もありまして、秩父別町が20戸、浦河町や新ひだか町が15戸と、10戸以上を持っている自治体もありました。

次のページですが、北海道移住体験「ちょっと暮らし」の令和元年度の実績ですが、令和2年度の実績もホームページに掲載されていましたが、コロナの影響によりガクンと利用者が減ってましたので、元年のデータで調査をしました。まず、利用者は2,713件、4,666人の方が「ちょっと暮らし」を利用しています。二つ目の利用者の居住地別人数ですが、利用された人がどこから来られているのかといいますと、道内からの申し込みが多いのかなと思いましたが、そうではなくて、首都圏が48パーセントの約半数の申し込みとなっており、その次に25パーセントが近畿圏となり、要するに大都市圏から「ちょっと暮らし」を利用している人が、大半ということになります。三つ目の利用者の上位10

市町村ですが、多いのが利用者数と滞在日数ともに、釧路市がずば抜けています。釧路市はどちらかと言いますと、住居を提供するのではなく、ホテルやウィークリーマンションなどを用意しており、経済界の方たちが「釧路に来て貰おう」というような取り組みをしており、その事務局も設けていまして、そこを通して予約した人たちを全部「ちょっと暮らし」の利用者として、カウントをしているようです。何とか釧路を宣伝して、関係を持って貰おうという取り組みをしていまして、ここがずば抜けています。それ以外では、上士幌町が161人、新ひだか町が91人の利用者数となっています。先ほどの提供戸数が多かった自治体が、利用者数も多いというような状況になっています。

考察と書いた欄がありますが、利用者数が4,666人で利用件数が2,713件で割りますと、平均の利用者数が1.7人となり、利用者は家族で利用したというよりは、単身もしくは二人パートナーでの利用が多いのかなと思います。実際に移住となれば、その人の家族全員が移住して来ますので、動きやすい単身の方とか、二人だけの方が動きやすいのかなと思います。人数が増えれば増えるほど、中々移住というところまでいかないのかなと、移住体験についても同様にいかないのかなというのがちょっと見えてきました。

次に、首都圏からの利用者がほとんどということで、首都圏での知名度がほぼそのまま利用状況に影響するのかなと。全道的に有名な観光地だとか、魅力をずっと発信しているような地域や、ふるさと納税で一躍有名になった地域など、何か持っているところに集まっている傾向があるのかなと思いました。ただ利用者数ですが、釧路だけで約半数の47.5パーセントで、上位10自治体で63.4パーセントを占めており、滞在日数も釧路だけで27.3パーセント、上位10自治体で55.7パーセントということで、俗にいう2:8の法則というのがありますけど、上位2割の方たちで、売上の8割を占めるというような、ちょっと寡占的な感じで、簡単に始めたらすぐに利用者が増えるというよりは、戦略的に練って、何か尖った宣伝をしないと、厚田まで来ようとはならず、隣の当別町がいいかなとか、有名な上士幌町がいいかなとなってしまっているところが見えてきました。

次のページですが、お試し住宅の利用状況ですが、夏期と冬期に分けてみました。夏期では、利用なしが3パーセントぐらいあり、1ヶ月未満が6パーセント、1、2ヶ月が11パーセント、2、3ヶ月が13パーセントで、合わせて全体の3分の1ぐらいの利用があります。各自治体の利用状況を見ますと、夏休みの「ちょっと暮らし」の利用が多く、休みが取りやすいというものもあると思います。それ以外の月ですと、5月のゴールデンウィークに少し、9月の夏休み終わりに取ってというのもありまして、夏期の期間ほぼほぼ埋まっている状況は、36パーセントの稼働状況となります。

一方で冬はもっと悲惨で、3分の2ぐらいが利用なしという状況で、もともと冬は諦めて利用させないというのが11パーセントあり、冬も提供しているのに利用者がいないのが59パーセントで、合わせて7割が、全く誰も利用しない住宅となっています。そんな中ですが、例えば、平取町ですが、お試し住宅は用意してあるのですが、冬の利用者がいないので、平取町の中で交通の便が悪いちょっと山間部とかに住んでいて、通院とかに支障がある方たちに、冬の間安く提供するなど、お試し住宅を別な使い方として、有効利用しているところもありますし、利用料金を思い切って半額にして、冬の利用というのを高めている自治体が1、2カ所ほどありました。通常の暖房費分は、上乘せするのが普通なのですが、どうせ来ないのだから暖房費を安くする、半分にすることで、少しでも利用を高めているのではと思いました。平均すると年間の3分の2ぐらいが利用されていない住宅が、約半数ぐらいあるということで、住宅を提供する側として有効かという、なかなか有効的に活用しているところは少ないというのが実情だと思いました。

次のページですが、利用者から見たときの「ちょっと暮らし」の利用価値というところですが、よくある失敗例というのがあります。例えば、移住先で仕事を見つけるのが大変だとか、仕事が見つからないとか、移住先が不便すぎるというのがあると思いますが、移住する前には仕事を見つけるのが普通ですよ。移住先が不便とか、交通の便が悪いとか、店がないとか、それはインターネットを見れば事前にわかることですよね。この上二つについては、準備不足と言われていますが、その下二つですが、人間付き合いや近所付き合いが想像以上に大変だったり、暗黙のルールみたいな自治会の活動に必ず入らなきゃいけないだったり、消防団に入らないといけないなど、コミュニティの縛りが強いこういうものは、インターネットで調べても出てこないですし、移住相談の窓口に行っても悪いことは言いませんの

で、見えてきません。そういうことを知りたくて、お試し移住でその地域に行って、地域の方からいろいろな情報を取りたいというのが、「ちょっと暮らし」をしたい利用者側の思いのようです。そういうことで、もし厚田で「ちょっと暮らし」をしようと思うのであれば、そういう情報を提供する場を設けていかないと、ただ単に一週間住んで、朝市で買い物をして、その後に道の駅で買い物して、ちょっとドライブに行きましただけだと、本当に知りたい情報が得られないので、どちらかと言うと来られた方は、残念となるのではと思います。そういう意味では、本当に来た方が知りたい情報をざっくばらんに、改めて役所の人と言うと、良いことしか言わないのじゃないかと、それは実際に住んでいる地域の方に、「ここはこうなんだよ」とか、「ごみ捨てはこういうルールだよ」とか、「消防団は任意だよ」とか、「お祭りだけは」みたいな、なんかそういう情報を提供する場というのが必要じゃないかなというふうに思います。

次のページですが、宿泊体験住宅を各自治体が提供しているのですが、どういうタイプがあるのかといいますと、一つは既存の宿泊施設で、先ほどちょっと言いましたが、釧路市のように民宿や旅館、ホテルを利用したり、個人の空き家や、自治体が持っている旧教職員住宅をリフォームして宿泊体験住宅にしたり、あとは、旭川市では、旭川の木材を使って、新築で建てて提供しているものもあります。

次に開始の手軽さを資金面と時間面で考えると、既存のある宿泊施設を使った方が、早いです。個人だとか、教職員住宅ではリフォームをしたり、個人だとオーナーの了承を得たりというようなところで、ちょっと時間がかかってしまったり。滞在期間については、既存のホテル・民宿では洗濯機があるわけではないですし、ガスコンロがあるわけじゃないので、滞在期間としたら4、5日ぐらいが多いです。一方で、貸別荘やウィークリーマンションの方は、どちらかといいますと自炊も出来るように、自炊設備があつたり、お風呂、トイレ、あと、洗濯機などあつたりするので、1、2か月ぐらいの滞在期間の利用となっています。貸し別荘の方は、夏にやっぱり利用者が多くて、夏はやめてくださいと言うところが多いです。個人の空き家や教職員住宅、新築では、長い期間居られます。民宿とかホテルでは設備が整っていない分、何日もずっとその部屋にいるというのは、辛いというふうになるのかなと。実際に厚田の状況としましては、既存の宿泊施設ということで、八幡二さんの民宿などがありますので、数は多くないですけどもそういう場所があります。貸別荘の方も民泊で貸しているところが、インターネット上では何軒が見られますので、これもゼロではないのであります。ウィークリーマンションは無いのでこれは出来ませんので、個人の空き家はあるのですが、貸してくれるのかどうかどんな感じなのかは、調査をしなくてわからない。教職員住宅のリフォームですが、教職員住宅そのものはありますが、けっこう古くてリフォームにそれなりの資金を掛けないと、住んでもらうというところまではいかないので、△(三角)としました。

実際に提供している自治体の利用料金ですが、9,200円から、210,000円というところで、非常に幅があります。9,200円ではコンテナハウスみたいなもので、シャワーはあるけど風呂ありませんとか。210,000円は、当別町のスウェーデンヒルズの中で、スウェーデンハウス1棟を「ちょっと暮らし」と提供しており、そこが17、18万円だったような気がします。平均すると水道光熱費込みで、大体平均月76,000円ぐらいです。水道光熱費が実費というところでは、40,000円ぐらいが平均になります。

備品についてはどんな感じかといいますと、テレビ、冷蔵庫、コンロ、電子レンジ、炊飯器、テーブル、ソファ、洗濯機は、ほぼほぼどこも付いていて、和室だと布団、洋間だとベッドを用意しているところもあります。風呂は、先ほど言いましたコンテナハウスは、風呂なし・シャワーのみというところがあつて、風呂が無いところがありますが、シャワーやトイレは、どの住宅もあります。Wi-Fiについては、用意されてたり、されてなかったりです。暖房機はほぼ付いているのですが、エアコンはほとんど付いてません。電話については、自分の携帯電話を使ってくださいというのが、実情でした。

最後のページになりますが、各自治体のホームページ上でいろいろと調べてみて思ったのですが、お試し住宅開始の課題としてまとめましたが、まずは提供住宅を用意する必要がありますが、既存の宿泊施設、民宿だとか民泊を利用するのが、やっぱり早いですし、「お試し住宅」の「お試し」じゃないですが、どんな反応なのかというのを見るのであれば、まずこれらを中心に、話を進めていくのがいいのかなと。最終的には、空き家を有効活用して、オーナーは空

き家から収入が得られ、地域には新たな交流や活性化ができるのかと。移住希望者は「ちょっと暮らし」で、長い滞在期間、一月だとか、そういうことができるようにと思っていますが、まずは、民泊だとか民宿を利用するのが、いいのかなというふうに漠然と思っているところです。

次に道外に向けての厚田の魅力発信ですが、今まで話し合っています新しいホームページには、首都圏に住んでいる人に刺さるようなメッセージだとか、コンテンツというものを用意しないとイケないのかなと。お試し住宅に来てくれる人は、札幌じゃなく首都圏が多いので、首都圏の人は北海道の雄大なイメージを持っていると思いますが、冬は厳しいというのも踏まえて、厚田にはこんな魅力があるのだという何か惹きつけるものが必要かと思います。

最後になりますが、移住希望者への地域の情報提供方法ですが、どんなプログラムで、どんな体験をしてもらったらいいとか、こういう場を設けたらいいとか、例えば、就農まではいかどうかはわかりませんが、ちょっと家庭菜園をやりたい人に、農作業の手伝いを行うプログラムとか、家庭菜園や土づくりの話が聞けるとか、魚の網外し体験ができるとか、何かそういうプログラムを、人それぞれにあったプログラムが必要かと思います。例えば、勝手に言っていますけど、厚田学園に体験入学できるプログラムがあるとか、2、3日授業を受けることができるとか、そういうようなものを開発して、それを実際に来てもらった方に提供してみて、検証・見直していくことが必要かと思います。首都圏から呼ぶと言いましたけど、まずは近くの人からモニターツアーに参加していただいて、体験してみて率直な意見を聞けるようなことからやっていけたらなと思っています。これらの課題を解決しながら、お試し住宅の開始に向けて今後取り組んでいきたいと思っています。私から以上となります。

【 渡邊会長 】

はい、ありがとうございます。それでは委員の皆さまから、何か奥本隊員に感想とか聞きたいこととかありましたら、お願いします。

【 鎌田委員 】

ここまで調べるのは大変だったのではと思います。当別町の滞在日数が7位になっているのですが、これは先程ちょっと説明のあったスウェーデンハウスの関係で多いのでしょうか。

【 奥本隊員 】

そうですね、当別町はまず、4棟から5棟ぐらい住宅を用意していますので、さすがに冬になると、利用者は少ないのですが、スウェーデンハウスだけは年中利用されています。2月だけがちょっと空いていたかなというところですが、スウェーデンハウスの売りである冬も暖かいというのが、首都圏にすると、スウェーデンハウスはちょっと木の香りがして、エアコンも聞かなくて、ちょっと高めの住宅というイメージがあるので、スウェーデンハウスは人気が高いのじゃないかなと思います。

【 鎌田委員 】

厚田で言えばゴルフ場が何か所もあるので、首都圏から来るのであれば、厚田に来てもらってゴルフ三昧とか、そんなことも考えられるのじゃないかなと話を聞いていました。

【 奥本隊員 】

そういうことも考えられると思います。厚田のゴルフ場は、平日だと結構料金も安いです。

【 鎌田委員 】

ありがとうございます。

【 渡邊会長 】

他に何かありませんか。

【 森田委員 】

2ページ目の「ちょっと暮らし」の実績の中で、新ひだか町が3位と2位に入っているのですが、こんなに上位になっているのは、奥本隊員的ななぜかというのわかりますか。

【 奥本隊員 】

何か馬の魅力があるのかなと思います。新ひだか町と浦河町では、用意する住宅の戸数も多くて、結構長い期間埋まっています。例えばですが、北海道の中でも雪が少ないということと、馬が好きなのがあるのかと。日高のこの2町はすごく意外でした。

【森田委員】

私も意外でした。ありがとうございました。

【渡邊会長】

他に何かありませんか。

コロナが増えて来て、最近はどうなのかなと思っているのですが、逆にテレワークが、どんどん普及してくるようになったので、チャンスなのかもしれないのかなと思っています。

【奥本隊員】

そうですね、令和2、3年度の利用者が減っているのですが、お試し住宅のプログラムそのものを自治体が辞めていましたので。もしかしたら、利用者は増えていたのかもしれませんが、実績としては減っていました。

【渡邊会長】

そうなのですね。

他に何かありませんか。

【東副会長】

当別町だとゴルフ三昧とか、日高町とか浦河町とかは、馬の牧場で調教の様子を見たり、叔父さんに刺さるような何かがあったりすると、凄く来やすいのかなと話を聞いて思いました。

【奥本隊員】

今回触れていませんでしたが、当別町の隣の新篠津村にも1、2戸の住宅があるのですが、申し込みがありませんでした。新篠津村は、あまりメジャーな場所ではないというか、首都圏の人には刺さらないのかなと思いました。

【東副会長】

私的には上士幌町の方が、謎なのですけど。

【森田委員】

上士幌町は、PRが凄く上手で、何か町を上げてやっていて、町長も凄く力を入れてるようです。

【東副会長】

ありがとうございます。

【奥本隊員】

今年だったかと思いますが、上士幌町に無印良品が住宅を建てて、企業とも関わってるなど今イケイケな感じになっているのかなと思います。

【渡邊会長】

そうですね、そういう意味では本当に上士幌町は頑張られていますね。私は熱気球しか思いつかなかったのですが、すごい頑張っていますね。ゴルフだとか何とかとなってしまうと、「ちょっと暮らし」なのかバカンスなのか、よくわからなくなってきますね。馬を見るために4、5日滞在しようかとなると。そこら辺は実際にどのぐらい、その後移住に繋がっているのかなど気になりますし、分析も必要ですね。

岡山委員、新篠津村はどうでしたか。

【岡山委員】

道内の方だと思いますが、キャンプ場には張る場所が無いぐらい、いつも土日は混んでいます。通過する場所とか、お風呂に入りに来るとか、そんな目的で人は来ているような気がします。ただあそこに住むとなったら、さすがに厳しいと思いますが、意外と隣の岩見沢市は15分で行けるので、知っている人だったらあれなのでしょうけど、住むとなると、辛いのかなという気はします。

【 渡邊会長 】

僕も新篠津村には、良く行くものですから。河川敷のゴルフ場とか、たっぷの湯とか大好きなのですが、住むかという。あそこは結構福祉の施設がいっぱいありますが、みんな岩見沢市に住んでるといふか、大体15分ぐらいで行けますので。その施設長も悩んでましたけど。

どうしても冬期間の部分は課題になってしまうと思いますし、夏場にどれだけ呼び込めるのかというのは、さっき言われてたとおり、なんかこう尖ったもの、目立つもの、他ではやってないものというのがなければ、なかなか厚田までは来てくれないのかなと思います。

奥本隊員ありがとうございました。

それでは続きまして、飯塚大隊員が北石狩地域観光まちづくり協議会のホームページの作成ということで、厚田の分を作っていたらいいので、そちらの方をよろしく願いいたします。

【 飯塚隊員 】

厚田区おこし協力隊の飯塚です。今回、移住・定住という話を聞いたりして、厚田の首都圏に向けたPRとか含めて、厚田のことを全体的に知って貰えるようなホームページを作りました。まずこれは全然仮の段階なので、意見をいただきながら、変更していくものだと思っています。一応仮ではございますが、僕がこのホームページを試しに作ってみる時に考えたこととか、特に伝えたいなと思ったことを紹介したいと思います。

スクリーンで今、トップページを見ていただいていますけど、トップが映像になっていて、厚田の漁業と農業と、こういう夕日とかきれいなところを全体的に、ダイジェストで流しています。まだ例みたいなものは出来てないのですが、ここに厚田の新しいイベントがありますとか、お米が収穫されましたとか、そういうのもいいですし、そこら辺はこれから固めていくと思いますが、そういうところをまずは、最新の情報を載せられたらと思っています。ここら辺のキャッチコピーは、全部僕が勝手に考えたことなので、多分変わっていくものだと思いますが、ここに厚田の概要を並べて、首都圏の方や札幌の人でも石狩はどことか、良く話を聞くので、そういった人にわかりやすいように、図を使って伝えられればなと思っています。下ですが、先ほどの奥本隊員の話でも出ていたのですが、ちょっと字が見えづらいかもしれませんが、「厚田で働く」と書いてありますが、厚田で働いている人の紹介とか、もしくは、厚田の求人情報とか、求人まではいかないまでも、何月何日に農作業の何々が欲しいとか、漁業の何々が欲しいとか、素人でも手伝えるようなこととか載せられるのであれば、そういうのを載せるのも凄くいいのではと思っています。最近見たインターネットの記事で、そういうのをホームページに載せて、漁業とか農業とかに気軽に関われるようなところを作っている地域もあったので、そういうのを扱うことがホームページの強みかと思うので、載せられたらなと思っています。ここは僕が勝手に連携させてしまってますけど、厚田の絶景とか、普遍的な観光要素というか、載せられたら目を引くのでは。景色に引かれて移住されることもお隣にいますので、景色の良さを伝えていった方がいいだろうなと思っています。最後にお問い合わせですが、再度、厚田の位置ってこんなところにあることを伝えてます。僕が協力隊になった時は、場所を本当に知らないで厚田に来て、凄く石狩から遠くなっていくなと思いながら来たので、厚田の位置を伝えられるように、グーグルマップとの連携をさせています。この1ページで厚田を概要的にわかって、詳細についてはクリックしたら、別ページに飛ぶようになっています。厚田のことを外部の人に見てわかってくれるような、実情的な部分も知って貰えるサイトにしたいと思っています。

私からは以上です。

【 渡邊会長 】

ありがとうございます。まだまだこれからというところですね。ぜひいいものを作成していただきたいと思っています。

事務局からここで何かありますか。

【 事務局（渡部主査） 】

私の方から補足になりますが、北石狩地域観光まちづくり協議会のホームページの制作依頼を飯塚隊員にお願いし

ており、ホームページのイメージも含め経過報告をしていただきました。本協議会での移住・定住についてのこれまで出された意見など参考にしながら、北石狩地域観光まちづくり協議会の中で厚田の情報発信についてのホームページを煮詰めていきたいと思っています。

次にですが、他市町村の移住・定住のホームページをご紹介します。奥本隊員から先ほどご説明があったとおり、道内半数の自治体で「ちょっと暮らし」を実施しているところですが、その中で奥本隊員が移住・定住に力を入れているホームページをピックアップしていただいたものと、前回の協議会の中で、小山委員より音威子府村のホームページというお話を頂いていましたので、それを合わせて紹介させていただきます。

それでは紹介しますが、お手元の資料1枚ものになりますが、今回紹介する地域のホームページのQRコードを掲載していますので、スクリーンでは見えづらいと思いますので、スマートフォンで見ただけであればと思います。

まず小山委員から話がありました音威子府村のホームページになりますが、観光パンフレットをリニューアルあるされたことがテレビで紹介されたのを、小山委員が見られたのではと思います。「音威子府村取扱い説明書」という観光パンフレットになっています。基本的には観光パンフレットなのですが、なぜTVで紹介されたのかといいますと、音威子府村ならではの注意事項が掲載され、特徴的なものになっているのかなと思います。それが4ページと5ページです。ちょっとスクリーンだと字が小さいので見えづらいですが、何が書かれているのかというと、「8と18の付く日は、毎晩18時30分にサイレンが鳴ります。これは火事ではありません。」、夏場の注意事項をピックアップすると、「野生動物、特にクマに気を付けて下さい」とか、冬の注意事項だと「長靴は必須ですよ」など、そういったところを、地域、田舎ならではの情報を掲載しているということです。奥本隊員がご説明したとおり、移住して細かな情報を知りうる方法がないというところに、音威子府村が観光パンフレットの中であるある情報を掲載したのかなというふうに思っています。例えば、厚田のセイコマートは21時で閉まりますよと、望来は22時、八幡町は24時というような情報が厚田ならではの情報なのかなと思いました。

奥本隊員が選んだホームページの中で特に凄いなと思った自治体ですが、森田隊員から先ほど話もありました上士幌町と下川町です。この2町については、市長もかなり力を入れているところですが、特に下川町については、凄くオリエティの低いホームページとなっており、見ているといろいろとクリックをしたくなるような、見たいことや知りたいことなど、見やすくわかりやすくなっていると思いました。面白いのが、一般向け移住者検討向けの現地やオンラインの視察を受け入れたりとかしています。あと、移住者の声などの紹介は他の自治体もありますが、下川町は動画で配信していて、そういったところが、何か惹きつける要素なのかなと思いました。また、子育て世代の方への情報発信もしてまして、下川町での子育てをショートストーリーで紹介するなど、力を入れているのがすごくわかります。凄くこだわったホームページとなっていますが、トップページのタグが、まさにこれまで協議会で検討してきたことがすべて詰まっているのかなと思いました。地域の魅力だったり、仕事だったり、子育てだったり、支援策だったり、そういった情報がわかるようになってまして、すごく考えられたホームページだなと思いました。

上士幌町のホームページですが、面白いところは「上士幌仕事会社図鑑」ということで、町の無料職業紹介サイトです。移住定住した際の仕事、働き先をしっかりと紹介しているところが、特化していると思いました。仕事ですと、厚沢部町のホームページですが、「厚沢部のお仕事ノードブック」という仕事に特化したサイトを持っています。いろいろなホームページがありますが、移住者側に訴えるところを明確にしている自治体がありました。

壮瞥町のホームページですが、一見ありがちな感じですが、実はありそうでない「移住までの流れ」が書かれています。「家族と相談しましょう」から書かれています。その流れを見ていきますと、やはりミスマッチを防ぐために、「ちょこっと暮らし」を体験して合う合わない、そういったところもきちんと書かれています。あと、壮瞥町のすごいところは手厚い支援です。子ども支援はもちろんですが、働き盛り支援や高齢者支援と、三つに分けてわかりやすく紹介されています。

最後になりますが、首都圏、近畿圏から移住定住したいとなったら、まずは北海道の移住ポータルサイトがあるので、このサイトをみるのかなと思います。このサイトは北海道179市町村のすべてが登録されており、項目にチェック

を入れていくことによって、例えば、「支援」にチェックを入れると、支援策がある80市町村に絞られていき、どんどん移住者の希望に合致する項目にチェック入れて行くと、機械的に市町村が絞られていくようなシステムになっています。ということは、そのチェック項目が一つでも多く対応できる市町村の勝算が上がることになるのかなと思います。移住者が道内の自治体をどれだけわかっているかという、知名度の高いところはわかっているかと思いますが、ほとんどわかっていないのではと思いますので、こういったサイトで自分の目的に合った場所が絞られてから、その地域のホームページに繋がっていくのかなと思いました。

北海道のポータルサイトも含め紹介させていただきました。私からは以上です。

【 渡邊会長 】

ありがとうございます。ここまで飯塚隊員と事務局からの説明がありましたけど、委員の皆さまから何かありますでしょうか。

いいなと思いながら、ここでどう出来るのかなと思いながらみてみましたが、よろしいですか。

それでは、ここまで移住定住と情報発信をテーマにして協議をしてきましたが、この辺で事務局から一旦整理の方をよろしく願います。

【 事務局（高田課長） 】

それでは私からこれまでの移住定住と情報発信について、いろいろと委員の皆さまから意見をいただいて、一定の方向性が、大体見えてきたかなというふうに捉えていますので、このあたりで、整理、確認するというので、この時間を設けさせていただきました。

前段ですが、奥本隊員、飯塚隊員からは、今後新たな取り組みの企画があるというような話もありました。さらには、移住者を受け入れる側の課題といいますか、整理すべき事項等の定義もあったわけです。これらの動きを踏まえつつ、まずは、情報発信、厚田の魅力発信という点については、観光を含めた情報を中心とした発信からまずはスタートを切って、厚田ファンを増やしていく。そして、関係人口の創出を図るという流れになっていくのかなというふうに考えているところです。その後、空き家の活用も視野にいれながら、また、厚田学園というすばらしい学校もありますので、これらの魅力情報も盛り込みながら、移住定住の促進へと結びつく、そんな情報発信へと更新をして、導いていくという整理になるのかなというふうに、まずは1点目を捉えています。

次に、議論の中でも東副会長からも出ていたかと思いますが、若者への仕掛け、交流を含めたイベントという点ですが、まだ現時点では実動部隊というか、実際に企画、実践するようなそういう方々がなかなか見えていない中で、これからどうやって進めるかというところは難しいところがあると思いますが、コロナ禍で開催されていなかった各地区のお祭りとか、ふるさとあきあじ祭りも含まれますが、既存のイベントについて今年は、若干動き出すようなそんな兆しも見えていますので、まずは、既存のイベントとマッチングさせる方向からスタートをさせるなど、このあたりからまずは若者の交流のきっかけを見出す流れを導き出すことができるといふふうに考えています。この整理の方向性については、委員の皆様からこのあと意見をいただければと思っています。

今後ですが、協力隊から新たな企画もありましたし、これらの動き、展開について地域協議会としては、見守って応援していくという方向になるのかなというふうに思いますし、それぞれの活動の状況につきましては、また地域協議会の中で、逐次報告させていただきたいというふうに思っています。情報発信、移住定住をテーマとした外部人材を呼び込む取り組みの一つ、関係人口創出するという「遠来」になるかと思いますが、この取り組みについて、協議会としては一旦協議を終えまして、見守り、応援していくといった整理をしていきたいと思っています。

説明については、私から以上ですが、このあたりの整理の仕方について、いま一度全体での確認をお願いしたいと思います。よろしく願います。

【 渡邊会長 】

ありがとうございます。今、高田課長から説明がありましたけどどうでしょうか。この整理の部分で何か聞きたいこととか、ご意見がありましたら願います。

無ければ、このような整理の仕方を取り敢えず、今の段階では、ここら辺で、情報発信と移住定住について、整理させていただいてよろしいでしょうか。

ありがとうございます。それでは、高田課長からありましたが、「近説遠来」の「遠来」の部分について、これから関係人口をどうやって増やしていくかとか、移住定住、そして厚田区の情報発信をどうやっていくかについては、先程来説明がありましたが、飯塚隊員と奥本隊員が中心となって進めていってくれると思いますので、我々はちょっと、二人の今後の部分の見守りをしていきたいと思っていますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

それでは次回からは、「近説遠来」の「近説」について、要するに住んでいる私たちがどうなのか、楽しんでいるのか、本当に満足しているのかというあたり、新しく集落支援員が加わり活動していますので、そこら辺を中心に9期のテーマの後半の部分については、「近説」ということで進めていきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

それでは、本日の協議事項については終わらせていただきたいと思います。

ありがとうございました。

5. 報告事項

(1) 厚田学園の「CSあいさつ運動」と「Bakery & Pizza HOME とのコラボレーションピザ」の販売について

岡山委員より報告

- ・厚田学園CSの活動の一環「CSあいさつ運動」の今年度の実施について
- ・昨年度開発した厚田学園とBakery & Pizza HOME とのコラボレーションピザについて、6月25日（土）に道の駅石狩での子どもたちの販売について
- ・厚田学園9年生の修学旅行で、横浜市の横浜橋通商店街での厚田のPR活動について

6. その他

全体を通して他に委員から質問等無く、次回の日程を6月30日（木）18時から厚田総合センターで開催することで了承。

7. 閉会

19時55分に閉会。

○次回の日程について

令和4年6月30日（木）18時00分～ 厚田総合センター2階 ホール

令和4年6月28日 議事録確定

石狩市厚田区地域協議会
会長 渡邊 教円